



立正佼成会ニューヨーク教会

320 East 39th Street, New York, NY 10016 TEL: (212) 867-5677

E-mail address: koseiny@aol.com, Website : <http://rk-ny.org>



ニュースレター2021年 10月号

皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。

照りつける真夏も過ぎ、季節は秋に向かいハリケーンがひんぱんに到来しています。各地で洪水や、突風の被害が出ていますが被災された方々へのお見舞いを申し上げ、この先これからもお互い様充分に注意して行きたいです。あわせてコロナ感染もまだ収束のめどが立たず決して気を緩めることが出来ません。

こうした状況の中、昼夜を問わず取り組んで下さっている医療関係、行政機関、ソーシャルワーカーの皆様へ感謝申し上げます、コロナ感染により亡くなられた多くの方々へのご冥福を心からお祈り申し上げます。そして現在病床に臥せられ加療中の皆様、自宅療養中の皆様の無事回復を祈念申し上げます。

今月は私たちが信仰の対象とする「ほとけさま」について考えてみました。

私は高校生の時から、佼成会の活動に参加し仲間と共に楽しい学生時代を過ごしました。

ただ、時折先輩幹部さんたちが話される「陰を信じて」とか「仏さまを念じて」という言葉を耳にしてその意味が分からず私にとって不思議な疑問が漂いました。

目に見えないものを信じるとは一体何なのか思い、ある時幹部さんに食って掛かり「陰、陰とよく言いますがそれはどういう意味ですか、私には理解できません」と質問を投げかけました。その時その幹部さんはやさしく首を振って微笑んでいただけでした。

大学生になり家の廊下に山積みになっていた開祖さまが書かれた本の中から何冊かを読み、はじめて「ほとけ」とはという解説の内容に心打たれました。

また、増谷文雄先生が書かれた「人間ブッダ」という話に興味をわき、その後何冊も本を読み人間としてのブッダの生涯や、苦悩、悟りに自分なりの理解を深め仏さまが身近に感じられるようになりました。

増谷先生の話をもっと聞いてみたいというのが、私の学林に入った目的の一つでした。

入林して法華経を学ぶ中で「人間ブッダ」と法華経に出てくる「釈尊」との関係が良く分からなくなることもあり、また不思議な仏さまの説話にも疑問を感ずることもありました。

そうした疑問の中で仏教と言う宗教をどうとらえるか自分なりに整理をしてみると見えてくるものがあります。一つは客観的に歴史や文化などの事実を学ぶこと。これは仏教学的な学問の世界かもしれません。二つ目は主観的に仏教を信仰として学び、自分としてどうとらえるのかという視点でこの両方のとらえ方のバランスが大切ではと感ずりました。あまり事実関係や学問的にとらえてばかりいてもいけませんし、ただ信じ込むだけでも普遍性に欠けてしまっていますが、自分自身の信仰として受け止めることが何より基本だと思います。

本会中央学術研究所顧問の森 章司先生は仏さまのとらえ方として次のように述べられています。

歴史上のゴータマ・ブッダ(釈迦牟尼仏)と「法華経」の釈迦牟尼仏、そして如来寿量品で説かれる久遠実成の釈迦牟尼仏と合わせて3人の仏さま方は一体のものとしてとらえるべきだと思います。私たちは私たち自身がブッダとなることを目標とすべきで、菩薩の自覚を持ちブッダが自分の中にあることを自覚できるように目指すことが大切です。と述べられました。

歴史上のゴータマ・ブッダは宇宙の真理(法)を悟られましたが菩提樹下で解脱の楽しみを味わいながら禅定されていた時、「自分の悟った法は煩惱にまみれている人々には判ってもらえないだろう」と考えられたそうです。しかしながら「理解する者もあるかもしれない」と奮い立ち、その悟られた内容を順々に分かりやすく弟子たちにお説き下さいました。

ある時病床の弟子の一人が仏さまに是非もう一度お目にかかりたいと願い仲間にそのことを伝えてもらったところ仏さまはこうお話しされました。「私を見るということは、法を見ることだ、法を見ることは私を見ることだ」と。それは悟られた法(ダルマ)の大切さ、その法と仏さまは一体なのだという意味です。

仏さまの滅後、仏さまの説かれた言葉を一つ一つ大切にしたいのが初期仏教でした。その後に登場した大乘仏教ではむしろ仏さまが本当に伝えたかった真意は何かを大切にしたいと願いさまざまな経典が編纂され最終的に法華経が説かれました。ですから法華経には仏さまのそのご真意がこめられています。しかもそのご真意をただ言葉で理解するのではなく信受し体解(身体でつかむ)することの大切さがくりかえし説かれています。

ですから私たちは読誦を通じて法(ダルマ)に出会いそのことは仏さまに出会っていることと同じことなのと言えます。またその読誦の在り方を日蓮上人は「色読」としてこう述べられています。「目や心で読むだけではなく、自らの身に当てはめて読むことが色読で、体験を通して身をもって読むことが大切」と全身全霊で教えに向かう姿勢を教えてください下さっています。

開祖さまは「慈悲の心」が仏道の出発点で「すべての人を幸せにしたい」という仏さまの大慈大悲の心が大きな願いで、その心を私たちの中に大きく育てて行くことが大切と教えてくださいました。そのための近道はいつも伝教大師のお言葉にある「己を忘れて他を利する」という心に徹することで、私たちが法華経の教えを生活の上に実践する大きな目標なのです。と述べられています。

今月も日常の生活を通じ少しでも仏さまの境地に近づけるような努力と、真理(法)の生きたはたらきに気づき、仏さまに出会えるようお願い、精進したく思います。



合掌

ニューヨーク教会長
畠山友利